

出身

宮崎吉之助さんは、明治42年(1909)、大相模村(現在の越谷市)の農家に生まれました。10歳頃から両親の手伝いで縄や米俵を作っていました。

吉川町へ

昭和7年(1932)、吉之助さんが23歳の時、農業を営む吉川町八子新田(現在の吉川市八子新田)の宮崎家に婿養子に入りました。吉川町は古くから縄や筵など稲わら加工品の産地で知られており、吉之助さんも農閑期、冬期の副業として藁工品を作っていました。この頃から吉之助さんの藁工品は「きめ細かいうえ丈夫」と評判だったといえます。

土俵だわら作りへの道

昭和29年(1954)、吉之助さん46歳の時、全国農林産物品評会で藁細工の荷造り縄が農林大臣賞を受賞しました。このことがきっかけとなり、日本相撲協会に出入りしていた荒物問屋に腕を見込まれて土俵だわら作りを始めました。



昭和29年(1954) 農林大臣賞の表彰状

土俵だわら作り一筋・家族の協力

昭和36年(1961)の11月場所から土俵だわらを編み始め、農業は全て長男の信雄さん夫婦に任せ、吉之助さんは大相撲の土俵だわら作り一筋に精を出しました。年6回の本場所用のほか、各相撲部屋の稽古、巡業場所用など年間約6千本の俵を編み続けました。また、信雄さんも専用の稲を栽培するなど、家族の協力により作り続けられました。



平成8年(1996) 土俵だわらを編む吉之助さん



完成した土俵だわら

土俵ができるまで

～家族で支えた大相撲～



マンガはイメージです。



吉川市イメージキャラクター なまりん



注 呼出し 土俵で東西の力士を呼び上げたり、土俵を作ったり裏方として多くの仕事をしています。

晩年

本場所用土俵だわらを全国でただ一人作り続けた吉之助さんは、33年もの間相撲界を陰で支えてきました。しかし、平成9年(1997)秋場所初日の9月7日、肺炎のため、88歳で亡くなりました。

技の伝承

長男の信雄さんは妻と農業をしながら、父の後を継ぐため、父の作業を見ながら土俵だわら作りを始めました。その後父に代わり本場所用土俵だわらを編み続け、土俵だわら作りの技術は、父から子へと継承されていきました。



平成30年(2018)長男の信雄さん

吉之助さんの主な功績

- 昭和29年 2月17日 神宮大宮司から全国農林産物加工品展優秀賞
- 昭和29年11月23日 農林大臣から全国農林産物品評会農林大臣賞
- 昭和61年 2月15日 埼玉県知事から文化ともしび賞
- 平成 2年12月 5日 吉川町長から吉川町文化功労章
- 平成 4年 1月13日 日本相撲協会から感謝状
- 平成 5年11月25日 埼玉県知事から優秀技能者表彰
- 平成 6年11月 3日 内閣総理大臣から勲六等瑞宝章
- 平成 7年12月25日 日本相撲協会から感謝状



平成4年(1992) (元)二子山理事長から日本相撲協会の感謝状が贈られる

土俵について

本場所では66俵の土俵だわらを使用します。太さはどれも10cm程度ですが長さはそれぞれ異なり、35cmから80cmまでの5種類あります。土俵だわらの編み方は米俵に似ていますが大きな体の力士を支えるので丈夫でなくてはなりません。そのため宮崎さんのように、長年の技術と経験が必要です。編んだ土俵だわらは、本場所開始前に呼出しさんによって土が入られ、土俵に埋め込まれます。

